

## 《 中国自動車情報 》

ホンダの中国合弁、初のEV専用工場が中国武漢で稼働 年産能力12万台でEVシフトを加速



ホンダと中国国有大手の東風汽車集団（Dongfeng Motor Group）との合弁会社「東風本田（東風ホンダ）」はこのほど、湖北省武漢市の新エネルギー車工場が稼働したと発表した。新工場はホンダ初の電気自動車（EV）専用工場として、東風ホンダのEVシフトとスマート化を大きく前進させる。新工場は武漢経済技術開発区に位置し、敷地面積は約63万平方メートル。東風ホンダ史上最もデジタル化・スマート化された工場となる。生産ラインの自動化比率を高め、プレス工程では立体倉庫の導入と部品搬送の自動化によって物流要員ゼロを実現した。倉庫内では約400台のロボットと約260台の無人搬送車（AGV）が稼働する。新工場の年産能力は約12万台に上る。ホンダの2024年1～9月の中国販売台数は、前年同期比29.3%減の58万8000台だった。同社は中国でのEVシフトを加速しており、22年にはEV「e:N（イーエヌ）」シリーズを、24年には次世代EV「燐（イエ）」シリーズを打ち出している。さらに、27年までにEVのラインアップを10車種まで拡大し、35年までに中国で販売する新車を全てEVとする方針だという。

トヨタ出資の中国自動運転ユニコーン「Pony.ai」、広州汽車から新たに約40億円調達

中国自動車大手の広州汽車集団（GAC Motor）はこのほど、同社の自動運転分野の発展を促進するため、傘下の広汽資本（GAC Capital）を通じて自動運転ユニコーンの「小馬智行（Pony.ai）」に2700万ドル（約40億円）を出資したと

発表した。Pony.aiは現在、北京市、上海市、広東省の広州市と深圳市から完全無人運転によるモビリティサービスの認可を受けている。公式データによると、2024年8月末時点で自動運転走行試験の走行距離は3500万kmを超え、うち完全無人運転での走行距離は350万kmを突破したという。同社は18年2月、広州汽車集団と戦略的提携を締結し、広州市で中国初となる常態的な自動運転車両の運用を開始した。Pony.aiは16年に設立され、これまで9回の資金調達を実施。総額は10億ドル（約1500億円）を超えた。出資者にはトヨタ自動車のほか、紅杉中国（HongShan、旧セコイア・キャピタル・チャイナ）やIDGキャピタル、中国・アラブ主張国連邦（UAE）共同投資基金などが名を連ねる。23年に実施したシリーズDの追加ラウンドでは1億ドル（約150億円）を調達し、評価額を85億ドル（約1兆3000億円）に押し上げた。同社は現在、米国のナスダックまたはニューヨーク証券取引所への上場を目指し、準備を進めている。

## 中国新興EV9月販売：5万台でトップ独走の理想汽車、伸び悩むファーウェイ「AITO」

中国の主な新興電気自動車（EV）メーカーが、2024年9月の新車販売（納車）台数を発表した。新興トップの理想汽車（Li Auto）が過去最高の5万3709台を売り上げたほか、上位勢各社が軒並み2万台超えを果たした。

### 1位：理想汽車

理想汽車（Li Auto）の9月の販売台数は、前年同月比48.9%増の5万3709台と再び5万台の大台を突破し、過去最高を記録した。24年1～9月の累計販売台数は34万1812台だった。理想はプラグインハイブリッド車（PHV）専業だったが、24年3月に初のピュアEV「MEGA」を投入した。同社の急速充電ステーションは全国900カ所を突破。充電設備の拡充がピュアEVの販売台数増加につながるのか、注目が集まる。

### 2位：AITO

自動車中堅の賽力斯集団（SERES）と華為技術（ファーウェイ）が共同運営するEVブランド「問界（AITO）」の9月の販売台数は3万5560台だった。前月の3万1216台からは若干伸びたものの、トップの理想に大きく差をつけられる格好となった。24年1～9月の累計販売台数は28万3697台だった。

### 3位：零跑汽車

零跑汽車（Leap Motor）の9月の販売台数は、前年同月比113.7%増の3万3767台だった。24年1～9月の累計販売台数は17万6821台。零跑はこのところ急速に業

績を伸ばしており、24年6月に初めて月間販売台数が2万台を超え、8月に3万台を突破し、新興3強の一角を占めるまでに成長した。

#### 4位：小鹏汽車

小鹏汽車（XPeng Motors）の9月の販売台数は、前年同月比39.0%増の2万1352台だった。24年1～9月の累計販売台数は9万8561台。小鹏はこのところトップ5入りを逃して

いたが、一気に4位に浮上した。8月末に発売した低価格帯シリーズ「MONA」初の車種「M03」の販売台数が1万台を突破し、勢いに乗る。

#### 5位：ZEEKR

吉利汽車（Geely Automobile）傘下の高級EVブランド「極氪（ZEEKR）」の9月の販売台数は、前年同月比77.0%増の2万1333台と今年6月以来の2万台超えを果たした。24年1～9月の累計販売台数は14万2873台。9月20日には、テスラの「モデルY」のライバル候補となるピュアEVタイプのSUV（スポーツ用多目的車）「ZEEKR 7X」を発売し、さらなる販売増を狙う。

#### その他

蔚来汽車（NIO）の9月の販売台数は、前年同月比35.4%増の2万1181台と2万台超えを果たしたが、惜しくもトップ5圏外となった。24年1～9月の累計販売台数は14万9281台。哪吒汽車（NETA）は依然振るわず、9月の販売台数は前年同月比23.4%減の10118台となった。24年1～9月の累計販売台数は9万1028台。スマートフォンメーカーによる初のEV「SU7」で注目を集める小米汽車（Xiaomi Auto）は、9月も1万台以上を出荷したとみられる。なお、業界最大手の比亞迪（BYD）の9月の販売台数は、前年同月比32.1%増の41万9426台と過去最高を更新している。

### 中国EVのNIO、5カ月連続で月間販売台数が2万台超え

中国の電気自動車（EV）メーカー、上海蔚来汽車（NIO）が発表した最新データによると、9月の新車納車台数は2万1181台、1～9月の累計は前年同期比35.7%増の14万9281台だった。同社の累計納車台数は9月末時点で59万8875台となった。NIOブランドの9月の納車台数は前年同月比30.1%増の2万349台で、5カ月連続で2万台を超えた。第3四半期（7～9月）では累計で6万1023台となり、四半期として過去最高を更新した。新たなブランド「樂道（オンボ）」の第1号モデルとなる電動SUV「樂道L60」は9月28日に納車を開始し、納車台数

は832台だった。同ブランドは10月に生産と納付を加速させる予定。「樂道」は全国57都市で125店舗を展開しており、10月には新しく55店舗をオープンさせ、店舗数を180店舗に増やすとしている。

### 中国バイドゥ、ロボタクシーサービス「Apollo Go」の海外展開を計画中

中国テック大手の百度（バイドゥ）が、自動運転タクシー（ロボタクシー）サービス「蘿蔔快跑（Apollo Go）」の海外展開を開始する計画で、すでに複数のグローバル企業と協議を進めているという。NIKEEI ASIAが報じた。百度は、近く自動運転向けソフトウェア「Apollo」をバージョン10.0にアップデートする。独自の自動運転向け大規模言語モデル「Apollo ADFM」を搭載したことで、Apollo Goの安全性や利便性が飛躍的に向上するとみられる。Apollo Goは中国最大規模のロボタクシーを擁しており、すでに深圳や上海、北京など10都市以上で試験運用を始めている。2024年7月には、湖北省武漢市での大規模導入が話題となった。武漢ではすでに約500台が運行しており、うち300台余りが完全自動運転だという。百度は、Apollo Goの武漢事業を24年中に損益分岐点に到達させ、25年には黒字化を目指すとしている。中国と米国の主な自動運転企業は現在、ロボタクシーの商用利用を本格化している。米Waymo（ウェイモ）はすでに、アリゾナ州やカリフォルニア州などの特定エリア内で一般向けサービスを提供しており、10月2日には米テキサス州オースティンでも一般向けサービスの提供を開始すると発表した。また、米テスラは10月10日、完全自動運転を想定したロボタクシーの試作車「サイバーキャブ」を公開した。イーロン・マスクCEOは、世界に100万台規模のロボタクシーを投入するとしている。



### 中国EV「NIO」、UAEに技術研究開発センター設立 中東事業強化へ

中国の新興電気自動車（EV）メーカー「蔚来汽車（NIO）」は10月4日、アラブ首長国連邦（UAE）の政府系ファンド「CYVNホールディングス」と戦略提携を締結したと発表した。両社は合弁会社「NIO MENA」を立ち上げ、首都アブダビに自動運転と人工知能（AI）技術などを研究する先進技術研究開発センターを設立する。NIOは現地市場をターゲットとした新型車をCYVNと共同開発し、NIO MENAを通じて中東・北アフリカ地域で事業を展開する。まずは、年内にもUAE全域で事業を開始する方針だという。CYVNは2022年に設立され、世界のスマートモビリティをリードする企業に投資している。23年1月には、中国の新興EVメーカー「小鹏汽車（Xpeng Motors）」に4億ドル（約600億円）を出資した。NIOには23年7月と12月に計約33億ドル（約4900億円）を出資しており、筆頭株主となっている。

### 中国・小鹏汽車、低価格車種「MONA」発売。初のAI搭載EVで1カ月で受注10万台突破か

中国の電気自動車（EV）メーカー「小鹏汽車（Xpeng Motors）」が8月27日、低価格帯シリーズ「MONA」初の車種「M03」を発売し、大反響を呼んでいる。受注台数は9月12日に7万2000台を超え、同月末には10万台を突破したとみられる。この勢いは、中国スマートフォン大手の小米集団（シャオミ）が3月に発売した同社初のEV「SU7」の人気ぶりを思い起こさせる。MONAというシリーズ名は、「Made of New AI」の頭文字をとった略語で、「人工知能（AI）によるスマートドライビングの普及者」という意味合いが込められている。M03という車種名は、米テスラの「Model 3」へのオマージュだという。M03は5人乗りのコンパクトセダン。スタイリッシュな外観、515km以上の航続距離、小鹏汽車の遺伝子を受け継ぐスマートエクスペリエンスが味わえる。にもかかわらず、エントリーモデルの価格は11万9800元（約250万円）とModel 3の半分程度とあり、瞬く間に中低価格帯のEV市場を席卷した。とはいえ、この価格帯は比亞迪（BYD）のコンパクトセダン「秦」や広汽埃安（AION）の主戦場でもある。小鹏汽車は現在、MONA M03の販売増に備え、生産能力の増強を急いでいる。

### 中国BYD、9月乗用車販売は45.6%増の約42万台に うち約25万台がPHEV

中国新エネルギー車（NEV）の比亞迪（BYD）の9月の販売台数は、前年同月比45.9%増の41万9426台となり、過去最高を更新した。乗用車の販売台数は

45.6%増の41万7603台で、うち純電気自動車（BEV）が16万4956台、プラグインハイブリッド車（PHEV）が25万2647台だった。主力の「王朝」シリーズと「海洋」シリーズの販売台数は計40万1572台。傘下の高級車ブランド「方程豹（Fangchengbao）」は5422台、「騰勢（Denza）」は1万299台、「仰望（Yangwang）」は310台を売り上げた。1～9月の乗用車の累計販売台数は273万6401台に達し、年間販売目標の360万台まであと90万台を切った。

### マツダの中国合弁、NEV事業拡大に向けて2000億円投入へ 「毎年1車種投入」

マツダの中国合弁会社「長安マツダ」はこのほど、新エネルギー自動車（NEV）事業の拡大に向け、2027年までに100億元（約2000億円）を投じると発表した。資金はNEVの開発・生産・販売などに充て、セダンやSUV（多目的スポーツ車）など毎年1車種以上のNEVを投入する計画だという。日本経済新聞が報じた。長安マツダは9月28日、新型NEVセダン「MAZDA EZ-6」の予約販売を開始すると発表した。同社の鄧智濤執行副総裁は発表会の席上、27年までに年間生産・販売台数を30万台に引き上げ、うち9割をNEVとして合弁NEVブランドのトップを目指す方針を明らかにした。MAZDA EZ-6では、独自の電気アーキテクチャ「馭電智行」を搭載し、純電気自動車（BEV）タイプとプラグインハイブリッド車（PHV）に分類されるレンジエクステンダータイプの2タイプを提供する。中国の独自基準「CLTC」で算出したフル充電時の航続距離は、BEVタイプが600km、レンジエクステンダータイプが1301kmとなっている。BEVタイプには、CATLの「麒麟電池」が搭載されており、15分間で充電量を30%から80%にできるという。

### 中国EV「理想汽車」、100万台目をラインオフ 58カ月で達成もテスラ上海工場には及ばず

中国の新興電気自動車（EV）メーカー「理想汽車（Li Auto）」が10月15日、江蘇省常州の工場で100万台目の車両をラインオフした。車種はSUV（多目的スポーツ車）の「L9」。

理想汽車が1台目の車両としてプラグインハイブリッド車（PHV）のSUV「理想One」をラインオフしたのは2019年12月。それから58カ月というスピードで100万台目のラインオフを達成した。2024年9月の出荷台数は過去最高の53000台と

なり、これまでの累計出荷台数が97万5176台に達した。一方、EV世界大手の米テスラは、12年6月に1台目の車両となる「モデルS」をラインオフしてから、100万台目のラインオフまでに約8年を要したが、上海ギガファクトリーが稼働してからは生産スピードが大幅に上がった。同工場は19年12月30日に1台目の車両をラインオフし、わずか8カ月後の22年8月には100万台目を達成。その後、23年9月には200万台目、24年10月12日には300万台目のラインオフを果たしている。



### 中国EV「AION」、トヨタも支援の自動運転ユニコーン「Momenta」と提携

中国の電気自動車（EV）ブランド「AION（アイオン）」は10月15日、中国の自動運転ユニコーン「Momenta（モメンタ）」と戦略的パートナーシップを締結した。両社は都市型NDA（Navigated Driving Assist）など高度な自動運転ソリューションの開発と実用化を共同で推進する。AIONは、中国自動車大手の広州汽車集団（GAC Motor）傘下の広汽埃安新能源汽车が展開するEVブランドで、2018年11月に設立された。今後は、Momentaが開発した自動運转向け大規模言語モデル（LLM）の端対端深層学習（end-to-end deep learning）アルゴリズムをベースにすることで、複雑な環境下での自動運転でも高度な安全性と利便性を確保できるようにする。広州汽車集団とトヨタ自動車の合弁会社「広汽トヨタ」も、Momentaと共同で高度運転支援システムの実用化を推し進める。同システムは、高精度地図に依存することなく都市部や高速道路での自動運転や自動駐車をサポートする。まずは広汽トヨタの新型ピュアEV「bZ3X」に搭載されるという。Momentaは2016年7月に設立され、以降5年

間で累計12億ドル（約1800億円）以上を調達した。出資者は、トヨタ自動車や上海汽車集団（SAIC）、米ゼネラル・モーターズ（GM）といった大手自動車メーカーのほか、独自動車部品大手ボッシュ（Bosch）や中国IT大手テンセント、シンガポール政府系投資会社テマセクなど。以前の報道によると、同社は米国での新規株式公開（IPO）を計画しており、早ければ24年中に上場を果たす可能性があるという。

### 《自動車関連情報》

#### テスラ、ロボタクシー「サイバーキャブ」披露 26年に生産開始へ

米電気自動車（EV）大手テスラのイーロン・マスク最高経営責任者（CEO）は10日、上方に開く2つのガルウィングドアを備え、ハンドルもペダルもないロボタクシー（自動運転タクシー）「サイバーキャブ」を披露した。2026年に生産を開始し、3万ドル未満で購入できるようになると語った。運用にかかるコストは1マイル当たり20セントだという。マスク氏の計画では、多くのサイバーキャブを運用し、乗客はアプリを通じた配車依頼が可能になる。個々のオーナーも自分の車をロボタクシーとしてアプリに掲載することで収益を上げることができるようになる。



#### 米テスラ、EV販売で世界一の座を奪還 中国BYDを2万台差で抜く：24年7～9月期

米テスラは2024年7～9月期、中国の比亞迪（BYD）から純電気自動車（EV）の販売台数世界一の座を奪還した。テスラの7～9月期の世界販売台数は約46万3000台。一方、BYDのBEV乗用車の世界販売台数は約44万3000台で世界2位となった。テスラとの差は約2万台だった。テスラは「モデル3」と「モデルY」が引き続き好調だったことに加え、「モデル3 ハイランド」の2024年モデルが

世界的人気を呼び、当期の販売増につながった。同モデルはデザイン・性能・価格を最適化したことが奏功し、北米や欧州だけでなく中国市場でも好評を博している。テスラは世界展開でBYDをリードし、とくに北米や欧州市場で明らかな優勢を維持している。一方、BYDは中国市場では優勢だが、世界展開では出遅れている。

### 欧州自動車EV化、3重苦の危機 中国猛攻に需要低迷、環境規制 「自滅する」と警鐘も

パリで今月開かれた国際自動車ショーでは、中国製EVが話題をさらった。中国最大手、比亞迪（BYD）の記者会見には千人近くが集まった。李柯（ステラ・リ）執行副社長は最新EVを紹介し、「来年末までにハンガリー工場が稼働する」と欧州進出への意気込みを語った。新興メーカー、浙江零跑科技（リープモーター・テクノロジー）は1台2万ユーロ（約320万円）以下の格安EVが売り物だ。欧州大手、ステランティスと提携し、同社のポーランド工場に6月に生産を開始した。欧州の調査機関T&Eによると、EUのEV新車販売で今年、中国メーカーの割合は11%となる見込み。3年後には20%に達すると予測される。EUは4日、中国製の輸入EVに追加関税を課すことで合意したが、中国勢は着々と欧州に生産拠点を設け、関税回避に先手を打つ。中国勢は価格競争で欧州メーカーを脅かすだけではない。いまはハイテク自慢の高級EVに力を入れる。BYDは今夏、パリのシャンゼリゼ通り近くにショールームを開設した。行ってみると、客でいっぱい。イタリア人客（64）は「私は伊高級ブランドのEVも持っているが、BYDは航続距離が長く、バッテリー動力で勝る。デザインもよい」と語った。店員に聞くと「月100台近く注文が入る」という。BYDは今年、仏国内の販売代理店を100店に増やす計画だ。ドイツ世論調査では59%が「中国EVを買ってもよい」と答えた。40歳未満では70%超。ドイツ紙記者は「EV化で、フォルクスワーゲン（VW）などの欧州老舗はブランド力を失いつつある。若い世代はスマホを買うように、新しい機能に飛びつく」と指摘する。

### タイの9月BEV新規登録台数シェア：中国BYDが1位、Neta2位に

タイの電気自動車（EV）向け充電ソリューションを提供するパワー・エンビジョンによると、同国の今年9月のバッテリー式EV（BEV）新規登録台数のうち、中国の合衆新能源汽车が展開する「哪吒汽車（Neta）」ブランドが16%の

シェアを占め、比亞迪（BYD）に続いて2位に立った。タイのBEV市場では哪吒汽車が2車種、BYDが5車種を発売しており、中国ブランドの同国におけるシェアは8割を超える。競合の少ない「ブルーオーシャン」を前に、哪吒汽車は2021年、海外進出戦略を始動した。同社は現地の状況に応じ、海外の優秀な協力パートナーと共に現地生産を速やかに実現。現在は、世界に46万人のユーザーを抱え、30数カ国・地域で事業を展開し、海外での売上高は全体の12%を占める。

### 川柳

- ◎平和賞、命・平和を、学ぶこと
- ◎肩書は、消え去りただの、おじいさん
- ◎記憶なし、民意も読めず、また議員
- ◎あの人は、総理・大臣、夢となり
- ◎パーティー券、マイナにひもづけ、すればよし

### 宮本政義

**Mail:masamiyamoto1@gmail.com**

**Mail:[masa.miyamoto@163.com](mailto:masa.miyamoto@163.com)**

**Mobile: 070-6462-1880(携帯)**